

## 第4回 諮問検討小委員会 会議録

平成28年2月4日(木)

13:00～16:00

○出席者 公運審委員

青木 健 (岩根)、古藤田 憲之 (鎌足)、澤邊 賢司 (岩根西)、元木 栄 (金田)  
松尾 玲子 (富来田)、鶴岡 俊之 (桜井)、本多 二三代 (文化協会)

事務局

原 (清見台)、渡邊・星野・栗本 (中央)、稲木(岩根)、松本 (八幡台)

○記 録 栗本 (中央)

I アンケート結果の確認 (事務局より結果の要点を説明)

II 答申案の作成について～前回の修正等、事務局案をもとに検討～

### 「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について」

- 1 公民館をとりまく地域の現状と課題
- 2 教育機関としての公民館の今日的役割
- 3 これからの公民館事業に求められるもの
- 4 充実した公民館活動を推進していくために

青木 それでは前回の続きから始めたいと思います。

元木 「3(1)性別や年齢層に関係なく、新たな利用者層を開拓するための工夫」について、「公民館だよりは・・・A3版に統一し文字を大きくするなど」とあるが、現在モノクロ印刷されている公民館だよりをカラー刷りにできないだろうか。カラーだと人目を惹き、見る人も増えるかもしれない。回覧板を回す際、他の資料に紛れ、公民館だよりを取らない人もいる。

青木 現実的にA3版でカラー印刷した公民館だよりを発行できるのか。

星野 公民館だよりは、各館ごとに配置された印刷機で印刷している。印刷機ではカラー刷りができない。

本多 カラー印刷が難しければ、用紙を色紙にすることもできる。

元木 公民館まつりなどのイベントが開催されるとき、カラーで印刷されている公民館だよりがあるが、色があると目を惹く。

古藤田 全部カラーは難しくても、一部カラーにすることはできないか。

原 カラー印刷は一枚のコストがとても高くなってしまう。市役所の印刷機で二色刷りできるので、それを利用できないこともない。

松本 しかし、全館が二色刷りをするとコストがかかりすぎる。

原 印刷機のドラムを変えることもできるが、違うインクはコストがかかる。10枚、20枚くらいなら可能かもしれないが、1000枚単位となると相当なコストとなる。コストのかから

ない方法としては、ホームページにカラー版でアップすることが考えられる。

元木 写真が載っていても、白黒だとつぶれてしまって何の写真か分からないことがある。

古藤田 SNS、ICT とあるが、これだけでは単語の意味が分からない人もいると思う。

星野 自治体によっては、twitter や facebook などのソーシャルネットワークサービス、いわゆる SNS を取り入れて、公民館の情報を発信しているところもあるようだ。ICT に関しては、情報政策課が進めているデジタルサイネージの取組や、きさこんのサイトから閲覧できる公民館ナビ（サークル情報）などが、IT サークル等一部を除き、積極的に活用されていない現状がある。

渡邊 答申の最後に用語説明をつければ分かりやすいと思う。

古藤田 インターネットの活用については、お年寄りはなかなか使いにくいと思うが、若い人は情報を得やすくなるかもしれない。

松本 家庭教育学級の若い世代の参加者には、SNS で情報を見つけたという人がいた。学級生が情報を発信してくれれば、コストをかけずに宣伝ができ、利用者を介してどんどん公民館情報が広がっていく。

古藤田 お年寄りの方など、SNS に明るくない人も多いと思うので、そういった地域の人を対象に、インターネットの活用方法や SNS の使い方の講習会をすれば、公民館の情報発信にもつながり、効果的だと思う。

松本 サークルによっては、きさこんの公民館サークルナビなどに、活動報告をアップロードしているところもある。公民館活動普及のために、どんどん取り入れた方が良い。

松尾 「A3 版に」とあるが、サイズは統一する必要はないと思う。サイズに違いがあっても良いと思う。文字のサイズを大きくし、見やすくすることが重要ではないか。

本多 地区の人は特に A3 版を求めているというわけではないと思う。

渡邊 サイズの統一よりも、見やすい紙面づくりが重要だと思う。

古藤田 B 版、A 版とサイズが違くと綴じにくいということはある。

星野 「A 版に統一」とするか、その文言自体を載せないのか、統一してほしい。

原 B4 サイズがある理由は、織り機の最大サイズが B4 だから。A3 は織り機で折れない。しかし、A 版に統一するため A4 サイズにすると B4 に比べ情報量が少なくなってしまう。SNS については、公民館が直接発信するより、参加者から参加者へ情報を伝達してもらうことが効果的。

古藤田 公民館の HP は、市の HP の中にあるが、独立させることはできないのか。

原 技術的に難しい。例えば、外部から悪意ある攻撃などがあったときに専門的な知識がないと対応できないのではないだろうか。

渡邊 実際には、市の HP をたどって公民館情報を得ている人は少なく、ほとんどの人は検索エンジンから閲覧していると考えられる。キーワードなどを工夫していくことが重要。

元木 「A3 版に統一し」というのは取ってしまっても良い。

星野 「文字を大きくしたり、カラーにするなど」と変更。

渡邊 「一方で、昭和 50 年代後半頃までは・・・ユースボランティアを活用した事業以外では、行われていないのが現状です。」とがあるが、他にもボランティアで高校生が参加するものもあるため、この箇所については再考を要するだろう。

- 星野 「昭和 50 年代後半頃までは青年団が活発に活動・・・」という表現はいかがか。
- 原 鎌足が最後だったと記憶している。
- 星野 活発だったのは、40～50 年代だったと思う。
- 渡邊 文章の正確性に関連して、文末が「大半」「圧倒的」といった表現になっているところなどは再検討が必要かもしれない。
- 青木 岩根ではサークル連絡協議会があって、サークル同士の話し合いが行われている。他の地区はどうなのか。
- 星野 サークル連絡協議会は、あるところとないところがある。ないところは横のつながり、交流が比較的少ない傾向にある。
- 鶴岡 桜井公民館はある。
- 元木 金田公民館はない。
- 星野 金田公民館はサークルの数が自体が少ない。中央公民館もサークル連絡協議会はなく、全体としてみると、サークル連絡協議会のある館の方が少ないと思う。
- 渡邊 「3(2)団体・サークルに対する積極的な活動支援」について、サークル・団体数は平成 22 年度より平成 26 年度の方が増加しており、サークル会員数も増えている。したがって、「利用者の大半を占め・・・会員の高齢化や減少、固定化が大きな課題となっており」という文言には誤りがある。一方、公民館全体の利用者数については減少してきているため、サークル会員として在籍はしていても、活動を欠席する人が多くなっているのかもしれない。
- 原 「岩根東・西地区や富来田地区などでは、公民館が仲介役となり」とあるが、学校行事等に公民館が連携・協力して行うものについては、もう一度各館に確認した方が良いかもしれない。
- 青木 「3(3)公民館ボランティアの発掘、育成とその活用」についてはどうか。
- 古藤田 「例えば、公民館が地域の要望に応じ、定年を過ぎた大人たちに対して」のところ、「定年を過ぎた大人」という表現は適切なのだろうか。
- 鶴岡 私がお話ししたのは、退職された方に限定したのではなく、現役の人も含まれている。
- 古藤田 「年配者」という表現も、「キャリア経験の豊富な」としたり、「定年を過ぎた」も「定年退職」にするなど、表現を変えた方がいいかもしれない。
- 青木 言いたいことは、地域の人材を活用するということではないか。
- 鶴岡 「経験豊かな」とか、「経験豊富な」という表現のほうが妥当ではないか。「定年退職」は除いても良いと思う。
- 古藤田 ここで重要なことは、大人から子どもへ経験や知識を継承していくということ。
- 星野 公運審の定例会で出た意見としては、地域の大人たちに地域活動を啓発していくための学習の場を設定してほしいということだった。
- 渡邊 「定年を過ぎた」は、「地域とかわりの少ない」というような表現はどうか。
- 青木 「例えば、公民館が地域の要望に応じ・・・新たな参加を促すことも一つの方法です」という文章は、前半と後半で別の観点について述べている。したがって、この長い文章を途中で区切る方が分かりやすいと思う。
- 松尾 「例えば、公民館が地域の要望に応じ・・・学習の機会を提供したり」を、「学習の機会を提供する。また・・・」とつなぐのはどうだろうか。

- 古藤田 「3(4)地域の課題解決や地域づくりにつなげていくための学習機会の充実」のところ、「なお、様々な障害を抱えた人々に関する事業は、中央公民館が主催する『ポランの広場』以外には実施されていません」となっているが、障がい者に対する事業は、桜井公民館で開催されている「気になる子どもを持つ親のための講座」は対象にならないのか。
- 星野 その事業の対象者は、子ども自身ではなく、その子どもを持つ親であるため、家庭教育支援の一環だと考えられる。ここで述べられているのは、障がいのある当事者自身を対象にした事業のことを述べている。
- 原 「実施されていません」というような、ネガティブ表現ではなく、ポジティブな表現にした方がよい。「地域に埋もれた若者」という表現も、「地域の若者」、「次世代を担う若者」へ変更してはどうか。
- 渡邊 最初の「地域によってその歴史や風習に違いがあるように」も、その次の文章との関連性が薄いので、取ってしまっても良いと思う。
- 古藤田 「3(5)多様な団体、教育機関、行政等との連携・協働」とあるが、「多様な団体」の中に企業は含まれないのだろうか。営利団体は入れるべきではないのか。これからの次代は企業との連携も視野に入れる必要がでてくると思う。
- 原 かつて、社会教育委員会議の答申の中で、地元企業の社内教育の一環で、勤務する男性社員を対象に、家庭教育に関する講座を開催してはどうかというものがあつた。
- 元木 現在、金田地区には様々な企業が入ってきているが、その多くは、本社が東京にあるような企業である。連携するにはその本社と話をしなければならず、実現は難しいのではないかと思う。
- 原 文章に入れるなら、「今後、地元企業との連携も必要になってくる」というような表現で良いと思う。
- 元木 金田地区に建設予定の交流センターに関する説明会で、公民館的な機能が含まれるのかについては触れていなかったように思う。住民は、交流センターも公民館も違いが分からないのではないだろうか。
- 渡邊 浦安市の高洲にある地域交流プラザは、児童館、図書館、社会福祉協議会、そして公民館など6部門が入った複合施設である。これからの公民館は様々な機能を持った複合施設の中の一つとしての位置づけとなっていくのかもしれない。
- 青木 他に気が付いた点はありますか。
- 古藤田 「4(5)施設・設備の老朽化やバリアフリーに対する対応」について、「利用者の高齢化に伴い」とあるが、高齢者の利用に資するのもそうだが、身体障がい者にとっても、利用しやすい公民館であるべきなので、それについても触れるべき。
- 澤邊 耐震補強だけでなく、外壁、内装、トイレのリニューアルなども入れてほしい。会議室も老朽化で雰囲気暗かったりする。トイレについても洋式トイレを導入したり、手すりをつけたりと、耐震補強に加えて改装を行ってほしい。また、公民館と一目で分かるような外観になれば利用者の拡大につながるのではないか。
- 星野 公民館のイメージアップも含めた老朽化対策が必要という意味合いでいかがか。
- 青木 公民館の土足利用についてはどうですか。
- 渡邊 八幡台公民館は、子ども達が裸足や靴下のまま使えるから良いという声を保護者から聞いて

たことがある。

稲木 岩根公民館は土足のまま入りたいという声が多い。高齢化もあり、スリッパで階段を上ることは転倒の危険もある。

鶴岡 「4(4)市民の利便性を高めるための方策に関する検討」について、ハッピーマンデーの記述は、月曜日が祝日の場合に、火曜日が休館日になるという意味で触れているのか。

星野 ハッピーマンデーにより火曜日が休館日となり、主に火曜日に活動しているサークルの回数が制限されてしまうことになる。

渡邊 ハッピーマンデーに該当する日は、1年で5日間ある。一部の個別事例については、館長の判断で休館日の開館を許可することもできるが、全館の開館には、規則の改正が必要。しかし、常勤職員が一人の館は、現在の運営形態では火曜日が休館日になる日の開館は厳しく、人材の確保が必要となる。また開館には、高熱水費、人件費といったコストがかかることも考慮に入れなければならない。ハッピーマンデーの記述自体について、載せるかどうか再検討を要する。

原 市民の利便性を高めることに関連して、会場をインターネットで予約できるとすると、HPの閲覧数や、若い人の利用者数が増加するかもしれない。

渡邊 インターネットを通じた会場予約については、インターネットを使える人だけが予約できるようになり、現在使用しているサークルが使いにくくなるという弊害も考えられる。

稲木 3日前までの申請に関して、「新規のサークルや団体は別としても」とあるが、使用申請について新規のサークルと既存のサークルを差別することにはならないか。

渡邊 浦安市などは、サークルを審査し認定している。認定されたサークルは当日申請しても利用できる。木更津市は認定制度はないので、標準処理期間を定め、公民館利用団体に適するかどうかを3日間で審査する。ただ、既存のサークルは3日間がなくても利用を融通することを検討する余地はある。

青木 「空きがあれば」という文言も不要だと思う。

渡邊 サークルを認定するにも基準があり、例えば会員数が10人以上という基準となると、少人数のサークルは使えなくなる恐れもある。

渡邊 「自己研鑽」の必要性については、公民館側の課題であることや、「裏方」といった表現方法など、細かい標記については、再検討していく必要がある。

古藤田 一番最初に戻るが、「はじめに」の一番下の年号が2015年になっているので「平成27年」に統一したほうがよい。

星野 前回の会議で、請西南地区に自治会がないという話が出たが、確認したところ請西東地区に自治会は存在しており、現在は、全地区に文京公民館が公民館だよりを配布しているそうです。したがって、市内に自治会のない地域はないとのこと。ただし、区長会連合会に所属していない地区はある。

古藤田 「1(2)地域住民の生活スタイルや年齢層、ニーズに合わせた利用の促進」について、「今後、地域の人口がますます高齢化していくのに伴い…利用者の高齢化をこれからの事業展開に…」の箇所、「高齢化」という文言が重複している。後半は取ったほうがよい。

青木 それでは、本日はこれにて終了いたします。

### Ⅲ その他(今後のスケジュール等)

次回以降の流れと日程について、事務局より説明

本日の修正意見を反映した答申案を各委員に送付し、次回までに確認してきていただく。

次回で答申案を完成させ、その後、全委員に送付。何か意見があった場合は調整を加えたいうえで、3月18日の第4回定例会前に最終確認を行なう。変更がなければ定例会で報告し、承認を得て、山田委員長から公民館長に答申を行なう。以上のながれで進めていくことを確認。

#### 次回検討小委員会

日時 3月2日(水) 13:00～

会場 中央公民館視聴覚室

欠席 元木委員

#### 事務局内の打合せ会議(職員検討委員会)

日時 2月16日(水) 9:00～

会場 中央公民館第2講習室